

第4学年2組 総合的な学習の時間学習活動案

男子15名 女子15名 計30名

場所 体育館

授業者 村山 豪

1 単元名 I love KANAI ～広げよう ぼく・私の地域の「わ」～

2 4年2組の子どもたち

本学級は、昨年度、「いもに伝統守り隊」として日本三大芋煮に注目し、そのおいしさを広める学習に取り組んだ。実際に日本三大芋煮を作るために、各観光協会に電話して作り方を教えてもらったり、自分たちが作成したパンフレットやポスターを山形観光名所に置いてもらうために、電話交渉をしたりしてきた。学習スタート時は、電話交渉に対してあまり積極的でなかったが、回数を重ねていく中で多くの子が電話交渉を経験し、交渉する時の技能も次第に身に付いていった。また、日本三大芋煮の紹介したパンフレットやポスターは、パソコンで作成したことで、パソコンの技術も大幅に向上した。

4月に今年度の学習について話し合いを行った際、子どもたちは、昨年度の自分たちの成長について語り始めた。子どもたちは昨年度の学習を通して、「調べる力」「交渉する力」「まとめる力」が身に付いたと語り、今年度は昨年度よりもレベルアップしたいという願いをもっていた。

話し合いの中で、「去年は、自分たちが置いたパンフレット等を手に取った人たちに日本三大芋煮の魅力を伝えることができたけど、相手の反応を感じるができなかったから、今年は実際に人と出会って、かわりをもちたい」という思いを語る子が出て、その意見が起点となり、直接的に人とかわり、その経験を通して、「つながる力」を高めたいという思いで一致した。

昨年度、社会科「のこしたいもの、つたえたいもの」の学習の中で、子どもたちが地域のことを全く知らないという事実直面していた。地域の行事や地域にある宝物などについて聞いても、「分からない」「知らない」という返答ばかりだった。地域の人とのつながりもほとんどないことが分かった。しかし、社会科の学習の中で地域のことを調べていく中で、自分たちが住む地域のことに興味をもつ子どもたちがどんどん増えてきた。そんな子どもたちの姿から、「地域のことをもっと知ってほしい」「地域の一員としての自覚をもってほしい」という願いをもつようになった。そこで、直接的に人とかわり、その経験を通して、「つながる力」を高めたいという子どもたちの願いをもとに、「地域の人」を探究課題の柱とすることにした。地域の人とのつながりを広げることで、学校という小さな世界から飛び出し、地域というより大きな社会の一員としての自覚も高めていきたい。

子どもたちは、これまでコミセン便りやインターネットサイトを使って、地域の人とつながる手がかりを探し、その中心がコミュニティセンターであることを明らかにした。そして、金井コミュニティセンターの事務局長さんとつながり、コミュニティセンターの役割や地域の人とつながる手がかりについて話を聞いた。事務局長さんから聞いた月に一回実施されている除草活動に参加し、地域の人とつながることに成功した。一緒に除草活動を行った地域の人とのつながりを深めたいという思いから、その人が所属しているサークルに参加するということを考えた。これまでに2回、サークルに参加し、地域の人とつながりの「わ」を広げ続けている。実際に地域の人とかわっていく中で、人とつながることの素晴らしさや喜びを実感し、素敵な人たちが地域には住んでいることに気づくようにしたい。そして、

日々の生活の中ですれ違う地域の人へのかかわりがよりよいものになったり、地域の行事への参加に積極的になったりする姿が見られるようになることが理想である。

3 教材について

金井コミュニティセンターには、140団体のサークルがあり、年間約30000人が利用している。また、コミュニティセンターは「人と人との交流」を目的としているため、子どもたちの「つながる力」を高めたいという願いと教師の「子どもと地域をつなげたい」という願いを実現させる最もよい施設であると考え。本単元では、この「金井コミュニティセンター」を中心に学習を進めていく。事務局長さんの出会いは、子どもたちにとって大きい。壁にぶつかったときに頼れる存在を作ること、自分たちで解決する道を作ることにつながっていく。また、地域の人に参加しているサークルも本単元では大きい。地域の人とかかわると言っても、個人宅へ訪問することはとても難しい。コミセンで行っている活動日・活動時間も決まっているサークルに参加することは、子どもたちにとって見通しを立てやすく、サークルの代表者への連絡・交渉などについても、社会における約束の取り付け方などについて、経験を通して学ぶことができる。また、サークルの参加者は、人との交流を求めている方も多いことが予想され、子どもたちの願いの実現に向けても大きな力となると考える。

そして、単元の終末では、コミセンの一角を借りて、「つながりサロン」を作ることを計画している。事務局長さんを中心にコミセンの職員の方々へ提案し、実際にサロンを作っていき、自分たちが感じた人と人がつながることの喜びを広げていく。このようなこともこの教材を扱うことによって実現可能になると考える。

4 子ども中心の単元づくりをめざして

(1) 単元の目標

- ・地域の人とつながるための手段や人とかかわるときのマナーや連絡や交渉するときの話し方、相手の都合に合わせて対応する力、自分の願いや思いを分かりやすく伝える力などを実際の経験を通して、身に付けていく。(知識及び技能)
- ・地域の人とつながるために、計画を立てたり、見直したり、相手に合わせて手段や方法を考えたりしながら、自分たちの願いを達成できるようにする。(思考力・判断力・表現力等)
- ・自分たちと地域の人とつながりを広げ、深めるために、互いのよさを生かしながら、積極的に地域に参画しようとする態度を養う。(学びに向かう力、人間性等)

(2) 単元の構成

単元の導入では、子どもと地域をつなぐ人との出会いの場を設定する。まず、金井コミュニティセンターとつながるために、事務局長の原田さんに来校していただき、コミセンのことや金井地区のこと、さらには、地域の人とつながる方法などについて話をしてもらう。そして、月1回実施されているコミセンの除草活動へ参加(6月・9月・10月)し、地域の人とのつながりをもてるようにしていく。そして、除草活動で出会った方からコミセンで活動しているサークルへ参加し、地域の人とのつながりを広げていく。

子どもたちが願う地域の人との「わ」を広げるためには、実際に様々な人とかかわる時の知識・技能は、繰り返し経験することで身につけていくと考える。本単元では、可能な限り、外部との交

渉は、子どもたちが取り組めるようにしていく。

また、地域の人とつながることの意味について考える時間を設定する。つながった人たちとのかかわりの中で、自分ができるようになったことや変わったこと、新しく知ったことなどをふり返り、地域の「わ」を広げることは、見える世界を広げること、そして、自分自身を太くしていくことなのだということを子どもたちと共有していく。

「つながる」というイメージをもちやすいように、本単元と同じようなねらいで活動している児童会活動を取り上げる。児童会活動の成果と課題について話し合う時間を設定し、自分たちの願いを実現するための手がかりを見つけ、自分たちのサークル活動に生かしていくようにする。

子どもたちの思いは必ずしも発言で表出されるわけではない。本単元では、できる限り、自分の思いをじっくりふり返ることができるようにする。どんなことでも書くことができるように「今、自分が思っていることを書き残しておこう」という視点で書くようにしていく。

さらに、学習を進めていく中で、考えを整理したり、分析したり、まとめたりする時間が生まれてくる。そこで、その都度、子どもの思いに寄り添った学習プリント作成し、子どもたちの思考が混乱しないようにしていく。また、思考ツールも効果的に活用して、子どもたちの思考の手助けができるようにしていく。

実際に地域の人とのかかわる活動が始まる前に、かかわる時に大切なことは何かについて考える時間を設定する。そこで、地域の人とのかかわる時に自己評価をしやすいように、具体的な言葉で合い言葉を作る。

一生懸命に取り組んでいる姿を過去にさかのぼって確かめることは容易ではない。本単元では、自分たちが実際に地域の人とのかかわっている場面に残し、後日、自分たちやかかわった地域の人の表情を見ながらのふり返り活動を行う。自分たちの様子や他の人たちのかかわり方について考えることで、次の機会でのかかわり方は大きく変容すると考える。

(3) 目指す子どもの姿にせまるための手立て

①学習課題に自分事として取り組んでいる姿

- ・かかわる対象をできる限り限定していく

地域の人とつながる際に、「誰と」をはっきりさせて取り組むようにしていく。つながる相手が明確になることで、学習への主体性を高め、「その人とのつながりを深めたい」という思いと自覚をもてるようにしていく。

- ・教室側面に学びの足跡を掲示する

板書や子どもたちが作成したものなどを拡大したものを掲示することでこれまで自分たちが何をしてきたのかをいつでも確認できるようにする。

- ・自分が思っていることを言葉にして書き残していく

体験活動や話し合い活動で感じたことや思ったことなどについて書き残していくことで、自分の思いや願いを明確にしていく。また、発言が苦手な子どもたちの思いや願いを全体に広めていくことにも活用していく。

②自分の考えを伝え合っている姿

- ・話し合いの視覚化を促すためにホワイトボードシートを活用する

班での話し合いの際には、意見が消えてしまわないように、ホワイトボードシートを活用して、出

された意見をメモしていく。

- ・ワールド・カフェ形式学習を取り入れる

班での話し合い活動で深まった内容を他の班にも広げていくために、ワールド・カフェ形式学習を随時取り入れていく。

- ・自分の学びを外化するために3分間トークを行う

一人3分間、自分が何を学び、何を感じているのを人に伝える時間を設定する。聴き手はオープンスクエーションをし、話し手の学びをどんどん掘り下げていくようにする。

(4) 予想される子どもの学び（6 5時間扱い 本時3 2時間目）これまでの学びを別紙参照

時	探求課題（□）主な学習活動（・）	主な留意点（・）と評価（◇）
10	<div>今年度の学習のテーマを決めよう</div> <ul style="list-style-type: none"> ・昨年度の総合を振り返りながら、今年度の学習のテーマを決める。 	<ul style="list-style-type: none"> ・人とのつながりについての興味・関心が高まるように、道德でつながりをテーマにした教材を取り上げる。 <p>◇自分が学習したいことをきちんともち、友だちの話を聞きながら、よりよい学習のテーマを決めることができたか。</p>
	<div>I love KANAI ～広げよう ぼく・私の地域の「わ」～</div> <div>地域とつながろう</div> <ul style="list-style-type: none"> ・地域とつながるための手がかりを探す。 ・金井コミュニティセンターの事務局長さんとつながる。 ・除草活動に向けての計画を立てる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・コミセン便りを配付したり、コミセンのサイトを開いておいたりして、全員が同じものを見て情報を交換できるようにする。 <p>◇コミセン便りやコミセンのサイトを使って、地域とつながる手がかりを見つけることができたか。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・金井コミュニティセンターとのつながりを密にするために、事務局長と連絡を取り、地域とつながる窓口にしていく。 <p>◇原田事務局長の話から今後の活動の見通しをもつことができたか。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・除草活動へ参加する目的を確認し、より自分たちの願いが実現するための方法を考える時間を設定する。 <p>◇自分の名前を覚えてもらう方法や地域の人の情報を集める方法について考えることができたか。</p>
35	<div>地域の「わ」を広げよう</div> <ul style="list-style-type: none"> ・除草活動に参加して、地域の人とつながる ・参加できるサークルを探す。 ・参加への許可を得るための交渉をする。 	<p>◇除草活動時、自分から積極的に地域の人とかかわろうとしていたか。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・紹介者カードを基に、サークルを割り出し、再度つながることが可能な地域の人を見つけることができるようにする。 <p>◇サークルの活動日や活動時間についての情報を集めようと努力したか。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・活動日や活動時間が一目で分かるサークル整理表を作り、参加可能なサークルを見つけやすくする。 <p>◇サークルへの交渉に積極的だったか。</p>

本時	<ul style="list-style-type: none"> ・サークルに参加する目的について考える。 ・もう一度、この学習の目的について 1 学期の経験をもとに考える。 ・サークルに参加する。 ・より地域の「わ」を広げるための活動について話し合う。 ・再度、サークルに参加する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・穴埋めの交渉原稿を渡し、交渉に苦手意識をもっている子どもでも挑戦できるようにする。 ◇連絡先の相手の気持ちを考えて、自分の思いを伝えたり、参加への交渉をしたりすることができたか。 ・サークルの代表者と連絡を取り合い、各サークルへの参加計画を立て、子どもたちと確認し、活動の見通しを立てる。 ・1 学期の経験をもとに、地域の人とつながること、地域の「わ」を広げることについて考えていく。 ◇参加したサークルで、自分から地域の方とかかわっていたか。 ◇サークル活動の経験を通して、今後の活動について自分なりの考えをもち、話し合いに参加していたか。 ◇自分たちが参加したサークルの中でできることを考え、実行することができたか。
20	<div>自分たちのできることをしよう</div> <ul style="list-style-type: none"> ・人と人がつながる「つながりサロン」（仮）の計画を立てる。 ・金井コミュニティセンターへ提案する。 ・つながりサロン（仮）を作る。 	<ul style="list-style-type: none"> ◇どうすればより地域の人同士がつながるのかについて考え、提案したり、友だちの意見に共感したり批判したりすることができたか。 ◇自分たちの思いを分かりやすく提案することができたか。 ◇つながりサロン（仮）実現のために、自分が任されたことに一生懸命取り組むことができたか。

5 本時の学習

（1）目標

- ・これまで経験してきたことをふり返り、より地域の「わ」を広げていくためにこれから取り組んでいきたいことを自分なりに考えることができる。

（2）本時で求める姿

- ・これまでの経験をもとに、これからしたいことを考え、提案することができる。（自分事）
- ・自分の考えを伝えたり、友だちの話を聴いて、共感したり反論したりしながら、自分の思いを深めたり、広げたりする姿（伝え合い）

（3）学習活動の展開

学習活動と教師の発問（○） 予想される子どもの反応（・）	留意点と支援（・）と評価（◇）
<p>1 本時の学習の見通しをもつ。</p> <p>○みんなは、6月だけでなく9月にも除草活動へ行きたいと言ったし、ヨガチームは敬老の日にも参加した。カラオケ・懐メロチームは、自分たちで歌練習をしている。3B体操チームは、一生懸命体操を考えていた。どうして、ここまでこの活動に頑張れるのですか？</p> <ul style="list-style-type: none"> ・林さんに会いたいから。 ・澄子さんが「また来てね」って、私のことを待っているから。 	<ul style="list-style-type: none"> ・これまでの地域の人とかかわっている写真を提示して、これまでの学習を思い出していく。

<ul style="list-style-type: none"> ・すごく楽しいんだよね。 <p>○「地域の人カード」を見せながら、自分たちが楽しかったことを伝え合ってみましょう。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・私はね、色摩さんとヨガをしたのね。そこで、趣味が編み物って教えてもらったの。そしたら、携帯で作ったものの写真を見せてもらって、そういう話したことがすごく楽しかったんだ。色摩さんのことが分かった気がして。 ・ぼくは、3B体操で、ベルターとボールの体操を考えたのね。渡辺さんとペアを組んだんだけど、気持ちを合わせ、うまくできた時、すごく嬉しかったし、渡辺さんと心がつながった気がしたんだよね。 <p>○私は、米澤さんと交流したんだけど、米澤さんが私たちのために、CDを作ってくれたんだよね。それが嬉しくて。一緒におどったり、歌ったりすることが楽しかったな。米澤さんもずっと笑顔だったんだあ。</p> <p>○みんなは、これまでの活動で、地域の「わ」を広げ、たくさんの新しい世界を見て、自分自身を太くして、つながることの楽しさを感じることができました。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・「何がどう楽しかったのか」でできる限り具体的に話ることができるように、オープンクエスチョンで問い返していく。 <p>・3分間トークを行っていく。「紹介者カード」は、テーブルの中央に置いて話をする。聴き手には、オープンクエスチョンを心がけるように指示する。</p> <p>◇自分の経験を具体的な場面を出しながら伝えることができたか。</p>
<p>2 本時の課題を共有する。</p> <p>これからどうしたい？</p> <p>○さて、これからどうしていきたいですか。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・またサークルに行きたい。 <p>○これまでと同じめあてではだめだと思います。もっとレベルの高いめあてをもって参加する必要があると思います。何のために参加するのかをチームで話し合いましょう。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・米澤さんからもらったCDで歌を覚えて、懐メロ愛好会の人に教えて、一緒に歌いたいな。 ・自分たちが作った体操を地域の人と一緒にした時、すごく楽しかった。もっと他の体操も考えて仲を深めていきたいな。 ・田中さんたちをお呼びしたように、ヨガで知り合った人たちをお呼びして、学校でふれあいたいな。 	<ul style="list-style-type: none"> ・再度、地域の「わ」を広げること→見える世界を広げること→自分を太くすることを確認してから、チームでの話し合いへ入る。 <p>◇地域の「わ」を広げるためという視点をもって自分なりのサークルでの活動を提案したり、友達の提案に共感や反論をしたりすることができたか。</p>
<p>3 今日の学びをふり返る。</p> <p>○今日、これからのことについて話し合いました。今、自分がこれから何をしたいと思っているのか、ふり返りましょう。</p> <p>僕は、これからも懐メロ愛好会に参加したいです。地域の方ともっとお話してもっと仲良くなりたいと思ったし、米澤さんからもらったCDを使って、歌を覚えて、一緒に歌いたいと思ったからです。</p> <p>私は、ヨガで知り合った人たちを学校にお呼びして、一緒にいろいろなことをしていきたいと思っています。自分が仲良くなった地域の人だけでなく、友達が仲良くなった地域の人とも仲良くなって、もっと地域の「わ」を広げていきたいと思っています。</p>	<p>◇話し合いを通して、これからの活動について自分なりに考えを書くことができたか。</p>

